

2020年度 第1回 帝京大学医学部附属病院 監査委員会要旨

1. 開催日：2020年6月
2. 開催方法：新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、当院の安全管理に係わる活動実績資料を監査委員に送付し、内容を確認してもらう形式で実施。
3. 委員：寺尾壽夫(委員長)、秦奈峰子(外部委員)、森唯章(外部委員)、川村雅文(学内委員)
病院側：坂本哲也(病院長)、澤村成史(安全管理副院長、医療安全管理責任者)、
河内正治(安全管理部長、専従安全管理担当医師)、
上妻謙(安全管理担当副院長補佐、医療機器安全管理責任者、
インフォームドコンセント管理責任者)、
溝田淳(総務担当副院長、診療録管理責任者)、
河野博隆(診療担当副院長、診療録記載改善委員会委員長)、
安野伸浩(薬剤部長、医薬品安全管理責任者)、和久正志(事務長・書記)、
根岸希三子(安全管理部)
4. 委員が確認した内容
 - (1) ヒヤリハット・アクシデント報告件数の推移
 - (2) 全死亡・死産事例の報告件数について
 - (3) 日本私立医科大学協会医療安全相互ラウンドについて
 - (4) 高難度新規医療技術評価委員会の活動実績
 - (5) 未承認新規医薬品等評価委員会の活動実績
 - (6) 職員に対する医療安全研修および教育について
 - (7) 院内医薬品の使用状況について
 - (8) 外来がん化学療法室における薬薬連携について
 - (9) 院内製剤として手指消毒薬の調整の開始について
 - (10) 医療機器の保守点検の実績
 - (11) 医療機器安全使用研修の実績
 - (12) 医療機器のトラブル等への対応について
 - (13) インフォームドコンセントの取り組みについて
 - (14) 当院の診療録管理の取り組みについて
 - (15) 診療録記載改善の取り組みについて

5. 前回(2020年2月20日)委員会の指摘、課題および改善策

○指摘：ヒヤリハット報告の報告数を増やしていただきたい。

○改善策：所属スタッフに対して各部署のリスクマネージャーからレジリエンス(事故を未然に防止した事例)も報告するよう積極的に働きかけを行った。
またヒヤリハット報告のキャンペーンやレジリエンスに対する表彰なども行っている。

○指摘：診療録の記載については記載の充実に取り組んでいただきたい。

○改善策：手術記録、インフォームドコンセントについてはテンプレートを作成し記載の統一と簡易化を図った。
症例カンファレンスについては医師事務作業補助者が記録の入力を支援している。
診療録記載の点検を医師事務作業補助者が診療録記載基準に基づき日々実施し、記載漏れや誤記載等のチェックを実施する予定である。

6. 監査結果

委員から特に質問・指摘事項等はなかった。